

都小音研

平成30年5月17日第60巻427号

発行所
東京都小学校音楽教育研究会

事務所
東京都世田谷区松原5-43-26
世田谷区立松原小学校

共通理解から共通実践へ

東京都小学校音楽教育研究会
会長 石橋 悟
(江戸川区立清新第一小学校長)

長く寒かった2017年～2018年にかけての冬が、遠い昔に思われます。本校の開校20周年記念樹ソメイヨシノは、例年なかなか咲くことがなかったのですが、今年は3月中に満開になりました。待ち望んだ春は、連日暖かい日が続き、その陽気に誘われ、全国各地に満開の桜をもたらしてくれました。心晴れやかに、4月からの新年度のスタートが気持ちよく切れたことと思います。4月は忙しかったことでしょう。入学式、1年生を迎える会、離任式など、音楽専科なしでは考えられません。改めて大きな存在感を示してくれたことと思います。

4月26日(木)、豊島区立池袋本町小学校にて開催された都小音研総会におきまして、早川修一前会長の後任として会長を拝命いたしました、石橋 悟と申します。前年度総武ゾーン大会の大会実行委員長を務めさせていただきましたが、都小音研会員としての年数も浅く、会長職としての職責を果たすことができるかどうか不安です。しかし、推薦してくれた方たちの気持ちを考え、精一杯務めさせていただきます。会長としては非力ですが、会員の皆様のご協力を得ながら会の運営にあたっていきますので、よろしくお願いいたします。

さて、その年、その時代により課題がありますが、この2年間の課題は二つあります。一つは、今年度より新学習指導要領の移行期間となり、その内容について全会員が共通理解し、2020年度の完全実施に向けて円滑に移行できるようにすることです。この移行するということは、共通理解した上で、日々の授業で実践するという事です。各地区でも新学習指導要領に向けての勉強会が行われ、内容についての理解が図られるでしょう。もう一つは、2018年度の全国大会に向けた都小音研研究大会および、翌年度の全日本音楽教育研究会東京大会の成功です。研究主題「つなげよう 深めよう 生かそう 音楽を」のもと、各種研究会を中心とした研究発表が、東京をはじめ、全国の子供たちのためになる音楽の授業実践の充実につながるようにならなければいけません。

2年前、前会長早川先生が就任時に書いた会報都小音研の見出しは「チーム都小音研」でした。チームとは、共通の目標を達成するために、協働して仕事をする団体のことを言います。会員数1400名を超える組織がチームとなるのは大変なことです。しかし、このチームにこだわるのが、東京都の小学校音楽教育の充実と発展を目指していくには不可欠です。この2年間の課題に取り組むことを大きなチャンスとし、都小音研が主催する研究会や研修会に多くの会員の皆様が参加して、学びの場を共有しましょう。そして、この機会に各種研究会に入会する方が増え、より各種研究会が活性化することを願います。こうした積み重ねが共通理解から授業への共通実践へとつながり、「チーム都小音研」がより現実のものとなることを目標として頑張っていきたいと思います。



総会報告

新緑まぶしい4月26日(木)、豊島区立池袋本町小学校にて都小音研の総会が行われました。

開会後は、早川修一会長から「新学習指導要領が発表され、先行実施が始まりました。2年後の本格実施に向け研究を進めるとともに、今まで行ってきたことを振り返り、さらに深めていくことが大切です。昨年度行われた総武ゾーン大会には600名以上が参加し、有意義な会となりました。本年度は、来年度行われる全国大会のプレ大会として、各種研究会を母体とした大会を1月に新宿文化センターで行います。新学習指導要領発表の下、東京が何をやるかは全国が注目しています。よりよい研究になるよう互いに協力していきましょう。音楽専科は各校一人、だからこそ都小音研の学びの場を大切に、皆で研鑽していきましょう。」とのご挨拶をいただきました。

その後は豊島区教育委員会・関 祐一統括指導主事と池袋本町小学校・中丸俊晴校長からご祝辞をいただき、議長に豊島区立さくら小学校・武内正子主任教諭と渋谷区立猿樂小学校・宮田俊明校長を選出し、議事はすべて承認されました。新会長の石橋 悟校長と各種研究会代表者からご挨拶をいただき、長年にわたり都小音研を支えてくださった3名の先生方に感謝状を贈呈して総会は閉会しました。

授業報告

豊島区立池袋本町小学校の前田しのぶ指導教諭による、第4学年「リコーダーのよさを伝えよう」を題材とした授業が行われました。本題材は、既習曲のグループ発表を通して、リコーダーのよさを、これからリコーダーを学習しようとしている3年生に伝えるという内容。教材は「エーデルワイス」「山のポルカ」「森のささやき」の3曲。それぞれ二部合奏や輪奏で演奏され、フレージングや音色の美しさ、音の重なりなどの美しさを実感できる楽曲です。子供たちは自分で演奏する曲を選び、グループをつくっていました。

導入では、今までどのようなことに気を付けて演奏してきたかを振り返り、本時のめあて「グループで見つけたリコーダーのよさが、より伝わるように演奏しよう」を確認。

グループ練習の前半は、グループ内で自分たちが気を付けたいと思ワークシートに記入していたことが実現できているかを確認しながら練習。「速さをそろえよう」など意見を出し合いながら、意欲的に取り組んでいました。

後半は、他の楽曲に取り組んでいるグループと、互いに発表し助言します。はじめのグループが「四分休符が入ると会話しているみたいだから、四分休符がきちんと入るように気を付けて吹きたい。」と自分たちが工夫したことを発表してから演奏すると、聴いていたグループが「四分休符がきちんと入って、楽しそうな感じがした。」「音が重なった時にゆれすぎない(ピッチの微妙なうねりのこと)方がよい。」など、発表したグループのめあてに基づいた助言や、よりよい演奏のための助言をしていました。その他「ソソソのところが強すぎる人がいたので、やさしく吹くと森にささやきが吹くようになると思う。」「ミーソレーのレが、強すぎずやさしい音でよかった。」「(フレーズの)山ができてよかった。」など、曲想と奏法を結び付けた助言が多く出され、充実したグループ活動が展開されました。

終わりに、前田先生から「お茶碗(音)はきれいになり、ご飯(曲想)もふっくら炊けそう。あとは3年生においしく食べてもらおうね。」と優しい笑顔で語られ、温かい気持ちで授業が締めくくられました。



講演報告

総会終了後「新学習指導要領の全面実施に向けて」と題して、国立教育政策研究所教育課程研修センター研究開発部教育課程調査官 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 志民一成先生のご講演がありました。

この2年間の移行期間中にどのような対応や準備が必要か、当日の前田しのぶ指導教諭の授業を新指導要領の三本柱と関連付けたり、参加者がワークショップを体験したりしながら具体的にご教示いただきました。

本日の授業には新指導要領の主旨がふんだんに盛り込まれており、例えば、曲想の違う既習の3曲を提示したことは①子供たちに選ばせる②既習曲のため思いや意図をのせることがいっそう有効である③子供たちがそれぞれの曲想に合わせて考えて演奏している、という子供の主体性を引き出すための指導者の工夫があったということでした。構造は現行とは変わっていても、「目標」「内容」「指導計画の作成と内容の取扱い」については、継承・発展させていくこととなるそうです。

全面実施に向けた指導計画を準備するためには①「音楽的な見方・考え方」を働かせる②「資質・能力」の育成を図る③「主体的・対話的で深い学び」の実現—この3点をどのように捉えるか、簡単なワークショップも行いました。

- ①「音楽的な見方・考え方」を共有するために参加者全員でカデンツを歌いました。最初に歌った時と、一音一音の働きや和音の機能について確認した後に歌うのでは歌い方が変わることを教員自ら実感しました。「導音から主音に早く行きたい!」という感性を働かせることが見方・考え方であり、これは広まったり深まったりしながら常に更新されています。そしてこのことが「資質・能力」に関わってきます。
- ②「資質・能力」の育成を図るには、まず知識及び技能がどのようなものであるかを捉え、そこから思考力・判断力・表現力と関連付けて有機的に授業を組み立てていきます。具体例として、「おぼろ月夜」の指導計画を挙げていただきました。歌い込んで生まれてくる思考力・判断力「高いところを響きのある声で歌いたい!」、これを表現するための技能が必要となります。
- ③「主体的」とは、学習の見通し(到達点)を示すことと自分の変容を実感することで子供が意欲をもてるようになるということ。「対話」には作曲者の思いなども含まれ、子供同士が話し合いをするための根拠が必要です。

最後に志民先生は、「『音楽に正解はない』というより『音楽の感じ方はすべて正解である』と考え、一人一人の違いやよさを認めながら授業改善を生かしてほしい」と締めくくられました。



平成30年度から
研究主題が変わります！

本年度の研究について

研究部長 石井 ゆきこ (港区立芝小学校)

研究主題 「つなげよう 深めよう 生かそう 音楽を」

1 研究主題について

学校教育はこれまで以上に社会とつながり、子供たち一人一人が生きる力を確実に身に付けられるようにすることが課題とされています。新学習指導要領では、音楽科で育成を目指す資質・能力は「生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力」と示されました。

児童は、音楽を自己のイメージや感情と関連付けながら聴いたり、自分の思いや意図をもって表現したりすることで、音楽とより一層、親しむようになります。また、自分の学んだことと生活や社会の中の音楽を関連付けることで、生活や社会の中の音楽の役割を考えられるようになります。音楽の授業を通して、「音楽は自分にとって大切な存在」「音楽を学んだことが生活に役立つ」という実感をもてるようにすることが求められているのです。

もう一つ、学校の音楽教育では、他者と協働しながら音楽活動する喜びを味わうことが重要です。友達と協働しながら音楽表現を生み出したり、他者との交流を通して新しい考えに触れたりすることで、自分の考えを広げ、深めることができます。

都小音研では、平成21年度に研究主題「つながる 深まる 音楽する喜び」を設定し、音楽とのつながり、人とのつながりの中で、児童が音楽的に深まり、音楽を聴いたり表現したりする喜びをもち、人間として豊かに育つことを目指してきました。

これまでの研究の成果と新教育課程の方向性を踏まえ、自分の思いや意図を表現するために必要な知識や技能を習得し活用する学習、聴き取り感じ取ったことを交流しながら学びを深める学習を、さらに充実させていきたいと考えます。また、児童が生活や社会との関わりの中で音楽の果たす役割に気付いたり、音楽の授業で学んだことを生活に生かそうとしたりする学習についても、研究を進めていきます。

児童が自ら「自分と音楽とのつながりを深めよう」「音楽で友達とつながろう」「音楽を生活に生かそう」と主体的・対話的に学び、学びの深まりを実感し、音楽活動をする喜びを味わってほしいとの願いを

こめ、研究主題「つなげよう 深めよう 生かそう 音楽を」を設定しました。

2 研究の視点について

音楽科における主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、次の研究の視点と指導の手立てを設定しました。

視点1 音楽的な見方・考え方を働かせた主体的な学習の実現 ～ 音楽の知識及び技能を習得し活用する学習過程の工夫 ～

◇音楽を形づくっている要素同士の関連、音楽の特徴とのつながり、曲想と音楽の構造との関わり、生活や社会との関わりなど、「関わり」に着目した楽曲分析及び教材研究、学びを焦点化した題材構成

◇「比較する」「関連付ける」「言葉や体の動きなどで表す」学習活動の工夫

◇学習の見通しをもつ場面、技能を習得・活用する場面、自分の学びを振り返る場面の設定

視点2 学びを深める対話的な学習の充実

～ 音楽科の特質に応じた言語活動の工夫 ～

◇他者との対話を取り入れた学習過程や学習形態の工夫

◇音楽科の特質に応じた言語活動の工夫

視点3 学びの深まりの充実を図る指導と評価

～ 学びが深まった児童の姿を大切にしたい指導と評価の充実 ～

◇発問の精選、教師の働き掛けの工夫

◇「学びが深まった児童の具体的な姿」「努力を要する状況への手立て」の明確化

◇年間指導計画・評価計画の作成

3 本年度の研究大会について

本年度の都小音研大会は、2019年1月25日(金)に新宿文化センターで開催します。2019年度全日本音楽教育研究会 東京大会を見据え、都小音研会員による各種研究会を中心とした研究発表を行います。7本の研究授業と研究協議、研究発表、講演などを予定しています。多数の先生方のご参加をお待ちしております。

平成30・31年度 都小音研 役員・運営機構 紹介

会 長：石 橋 悟 (江戸川・清新第一小)
 副 会 長：石 丸 靖 治 (目黒・鷹番小)
 小 崎 仁 (立川・西砂小)
 飯 島 満 子 (世田谷・九品仏小)
 川 上 真珠美 (瑞穂町・瑞穂第一小)
 叶 こみち (北・八幡小)
 宮 田 俊 明 (渋谷・猿樂小)
 坂 倉 理 恵 (小平・小平第六小)
 玉 野 麻 衣 (世田谷・奥沢小)
 理 事 長：峯 岸 敦 子 (世田谷・松原小)
 副理事長：小 池 義 和 (葛飾・南奥戸小)
 永 井 美奈子 (練馬・豊玉第二小)
 金 子 陽 子 (荒川・第六瑞光小)
 監 事：豊 田 美代子 (荒川・第二瑞光小)
 福 岡 峰 子 (多摩・聖ヶ丘小)
 早 川 修 一 (練馬・向山小)
 庶務部長：根 本 潤 子 (新宿・花園小)
 副部長：安 部 香 菜 (江戸川・第六葛西小)

会計部長：桑 畑 多 恵 (三鷹・高山小)
 副部長：武 内 正 子 (豊島・さくら小)
 松 丸 春 美 (板橋・緑小)
 白 田 友 加 (江東・東川小)
 研究部長：石 井 ゆきこ (港・芝小)
 副部長：前 田 しのぶ (豊島・池袋本町小)
 中 山 純 子 (板橋・板橋第五小)
 湊 り か (八王子・第四小)
 調査部長：槇 本 悦 子 (立川・柏小)
 副部長：小 室 有 香 (小平・小平第七小)
 南 部 直 子 (荒川・第二瑞光小)
 野 崎 真 理 (文京・汐見小)
 事業部長：藤 井 小百合 (足立・花保小)
 副部長：井 上 奈 々 (荒川・尾久第六小)
 脇 田 秀 男 (江戸川・葛西小)
 鈴 木 理栄子 (足立・測江小)
 広報部長：井 戸 正 利 (板橋・北前野小)
 副部長：猪 瀬 守 恵 (葛飾・北野小)
 安 達 夕希子 (荒川・第九峡田小)
 有 本 裕 美 (中央・佃島小)
 河 井 響 (練馬・練馬第三小)

♪♪♪ 理事会報告 ♪♪♪

〈3月理事会〉 3 / 8 於：中幡小学校

議長：杉山 奈美 (北・王子小)

○会長あいさつ

○議事

- 来年度の事業計画について
- 4月の行事予定について
- 平成30年度総会、4月理事会について
- 各部より *庶務 *会計 *研究
 *事業 *調査 *広報

○各地区理事よりひとこと

〈4月理事会〉 4 / 26 於：池袋本町小学校

議長：峯岸 敦子 (世田谷・松原小)

○会長あいさつ

○議事

- 5月の行事予定について
- 平成30年度 都小音研大会について
- 各部より *庶務 *会計 *研究
 *事業 *調査 *広報

広報「都小音研」今年度の発行案内

- ① 60巻427号 5月発行
総会報告、今年度の研究について 他
- ② 60巻428号 7月発行
研究大会案内、作曲コンクール案内 他
- ③ 61巻429号 10月発行
夏休み研修報告、Nコン結果報告 他
- ④ 61巻430号 3月発行
研究大会報告、合唱祭・管楽器演奏会報告 他

編集後記

一校一人の音楽専科にとって大切な交流と学びの場である都小音研。忙しい毎日の中、出張に出かけることも大変ですが、そこで得たエネルギーは、私たちを元気にしてくれます。今年度も本誌をご活用いただき、充実した日々にしていきましょう。(I)

会報 都小音研

発行所：東京都小学校音楽教育研究会

発行人：会長 石橋 悟

編集：広報部

印刷：コウシン 03-3324-9288